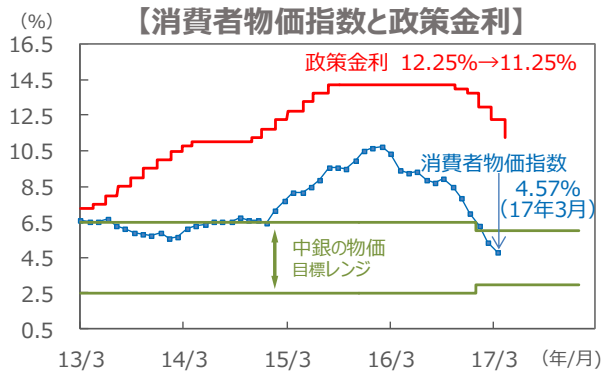


**今日のトピック** ブラジルの金融政策（2017年4月）

# 1.00%の利下げ：一段の追加利下げも示唆

## ポイント1 予想通り1.00%利下げ 約8年振り的大幅利下げ

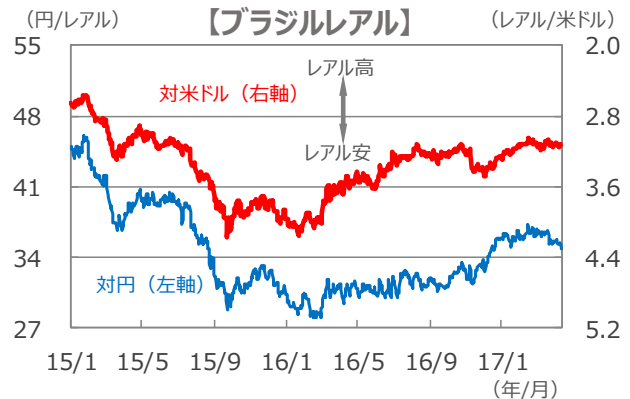
■ブラジル中央銀行（以下、中銀）は、4月12日の通貨政策委員会で、政策金利を現行の12.25%から11.25%に引き下げることを全会一致で決定しました。1.00%の利下げは、事前に中銀総裁などが示唆していたこともあり、市場予想（ブルームバーグ）と一致しました。これで、昨年10月からの累積利下げ幅は3.00%に達しました。



## ポイント2 今後の追加利下げを示唆 インフレ率の鈍化などが主な理由

- 17年3月の消費者物価指数は前年同月比で+4.57%と一段と鈍化し、インフレ沈静化傾向が続いています。中銀は声明で、最近のインフレ率の動向は好ましいと評価しており、食品価格の鈍化などにより当面は同様の傾向が続く可能性が高いと指摘しました。
- 中銀は、インフレ予想調査などに基づけば、さらに金融緩和を行う余地があるとしています。金融緩和の規模やペースについては、インフレ率の動向に加え、ブラジル景気や財政改革の状況、世界情勢の不透明感などを総合的に勘案して決まるとみられます。

（注）政策金利は2013年3月1日～2017年4月12日。消費者物価指数は2013年3月～2017年3月。中銀の物価目標は年率+4.5%で、レンジは2016年末までは±2%、2017年は±1.5%。  
（出所） Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータに基づき三井住友アセットマネジメント作成



## 今後の展開 ブラジルレアルは底堅い展開を予想

- 金融緩和は金利面でのレアルの魅力度をやや低下させますが、ブラジル景気の回復要因として市場から好意的に受け止められており、相対的には高金利通貨としての魅力があることには変わりません。また、ブラジル政府による財政再建への期待感などから、資金の流入が期待できる環境にあるとみられます。
- 地政学リスクなどがブラジルなどの新興国通貨の下落につながる局面もあるでしょうが、上述のような要因を背景にレアルは堅調な動きが続くと予想します。

## ここもチェック! 2017年3月31日 メキシコの金融政策（2017年3月） 2017年3月24日 鉄鉱石・石炭の価格動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。